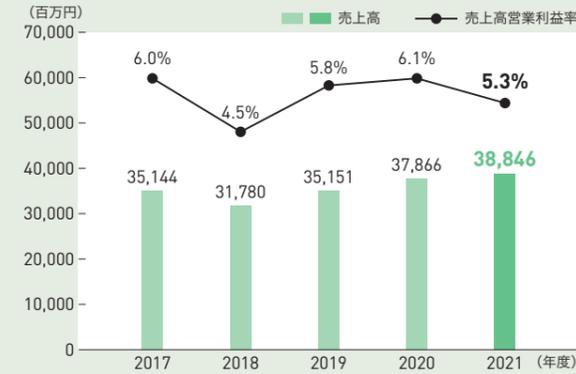


財務ハイライト

●売上高／営業利益率



2021年度の営業利益率は5.3%となり、2020年度の6.1%から0.8ptの低下となりました。事業別の営業利益率はBP関連が売上増や計画生産によるコストダウンで0.9pt改善した半面、AP関連は鋼材・購入品価格高騰などから-3.3pt、その他や環境及び搬送関連も各々1.1pt、0.7pt低下しました。2022年度の営業利益率は4.0%と1.3ptの悪化と見えています。

●親会社に帰属する当期利益／自己資本当期利益率(ROE)



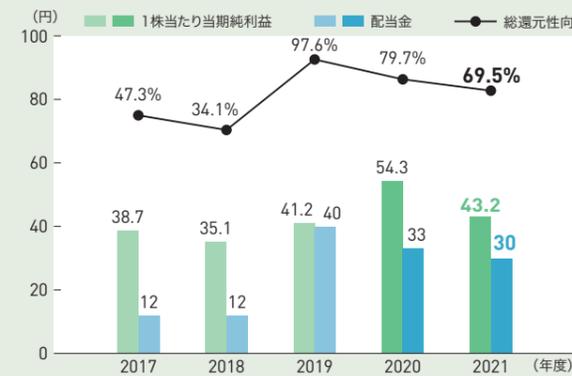
2021年度の親会社に帰属する当期利益は20.8%減となり、営業利益の10.8%減を上回りました。これは営業外収益で2020年度に前田道路株式会社の特別配当金3.4億円が剥落したことなどが要因です。純資産は利益剰余金などの増加で2020年度比6億円増加し、ROEは5.2%と2020年度から1.6pt低下しました。

●総資産利益率(ROA)



2021年度のROAは3.2%と2020年度比で1.1pt低下しました。2021年度末の総資産は2020年度比で34億円増加しましたが、これには買収した宇部興機分が18億円含まれています。宇部興機を除いた増減は棚卸資産が24億円増、売上債権が14億円減の一方、契約負債と前受金の増加で14億円などとなりました。政策投資株売却も7億円弱行いました。

●1株当たり当期利益／配当金／総還元性向



2021年度の配当金は30円(配当性向69.5%)となりました。2020年度は前田道路株式会社の特別配当金などで親会社株主に帰属する当期純利益が膨らんだことなどから配当金33円、自社株買い4億円と総還元性向79.7%となりましたが、2021年度はやや低下しました。2022年度の配当金は30円、配当性向95.6%と予想しています。

●設備投資／減価償却費／研究開発費



2021年度の設備投資19億円は日エニルソルの工場3.3億円などを行いました。2019～2021年度の中計期間における設備投資合計は63億円となり、減価償却費20.5億円を大幅に上回り、能力増強や機械設備更新が進みました。研究開発費は4.5億円と2020年度の3.9億円から増えましたが、会社計画7億円は下回りました。

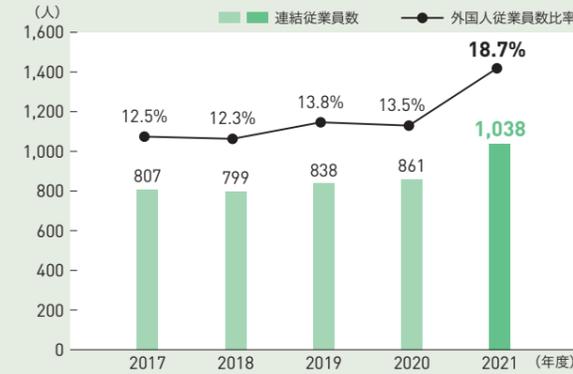
●キャッシュ・コンバージョン・サイクル



2021年度のCCCは93.9日、2020年度の94.5日とほぼ横ばいでした。棚卸資産回転日数は105.2日に悪化しましたが、売上債権回転日数が71.5日と大きく改善し、仕入債務回転日数も82.7日に改善しました。今後もCCCの改善を続けて、成長投資や株主還元、研究開発、人的資本などに振り向けていく意向です。

非財務ハイライト

●連結従業員数／外国人従業員数比率



2021年度末の連結従業員数は1,038人となり、2020年度末の861人から大きく増加しましたが、宇部興機の67人増を除くと実質的な増加は110人となりました。このうち外国人従業員数は194人と2020年度末116人から78人増加となり、全社に占める割合は18.7%(2020年度:13.5%)となりました。日エニルソル(タイ)の工場稼働で77人増加が主な理由となります。

●年間有給休暇所得平均日数(単体)



2021年度の単体における年間有給所得平均日数は10日(2020年度:9.7日)となりました。2020年度の9.7日からやや増加しましたが、2017年度以降は10日前後で横ばい傾向となっています。長期基本方針にある通り、業務効率を改善し労働生産性を大幅に引き上げるため、有休取得日数増加は従業員満足度の向上、ワークライフバランス上で重要と考えています。

●ISO活動項目の費用推移(単体)



2021年度のISO活動項目(電気・水道・廃棄物・用紙)の合計費用は7,820万円となり、2020年度から4.7%の増加となりました。2020年度の17.6%減から増加に転じましたが、これは原油価格上昇などで電力料金の値上げが大きな要素となりました。引き続き、資源の有効活用を進めるとともに、環境活動への貢献をすすめていきます。

●女性従業員／新卒採用者数／中途採用者数(単体)



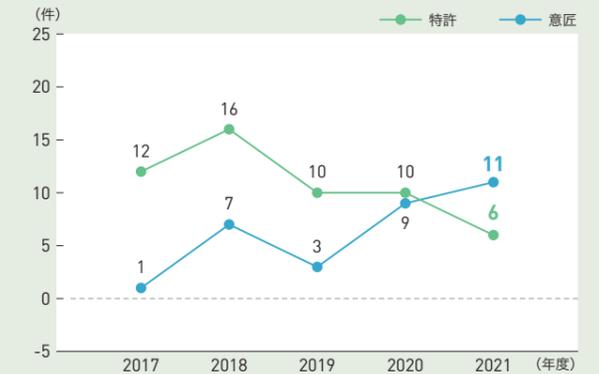
2021年度末の単体における女性従業員数は59人で2020年度末の55人から4人増加しました。単体の新卒採用者数は29人(2020年度:13人)と大幅に増加し、新卒女性採用者数は3人(同0人)でした。中途採用者数は22人(同21人)と高水準を確保し、今後もAP事業領域を中心に新中期経営計画に添って増強を進めていきます。

●電力使用量／生産高(単体)



2021年度の電力使用量は398.1万kwhで2020年度の390.3kwhから2.0%の増加になりました。ただし生産高が2020年度比で2021年度は11.9%増加しており、原単位ベースでの電力使用量は引き続き減少しました。カーボンニュートラル達成に向けた指針のもと、今後も節電の取り組みに加えて、再生可能エネルギー利用率を増やすなどして、CO<sub>2</sub>排出量削減を続けていきます。

●特許／意匠登録件数



2021年度の特許件数は6件、意匠登録件数は11件となり、各々4件の減少、2件の増加となりました。2021年度の意匠登録件数の増加は開発製品である食品ミキサ、日エセックの仮設足場製品、トンボ工業のショベルなどで、製品やサービスの差別化、ブランド価値向上をはかるため、特許及び意匠の取得は重要と考えており、今後も積極的に行う予定です。